

令和7年度 上田市立南小学校 学校自己評価シート【後期】

学校教育目標		めざす子どもの姿	評価基準				総合評価	
つよく たくしく あたたかく		えがお輝く南っ子	A…達成できた B…おおむね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった				今年度は、グランドデザインの目標を意識し、職員が授業のユニバーサルデザイン化やICT活用に重点を置き、児童の「ひざつき清掃」や「さんづけ」を通して、互いを尊重する土壌が整ってきている。学年を超えたチーム支援体制も、多角的な児童理解に大きく寄与した。一方で、児童が自ら「問い」を持つ主体的な学びや、深く「聴き合う」姿勢、家庭での生活習慣の確立には個人差があり、継続的な指導の必要性を実感した。来年度は、これらの成果を基盤としつつ、支援の標準化をさらに進める。地域や中学校との連携を強化し、家庭との対話を深めることで、一人ひとりの可能性を拓く教育を追求していきたい。	
目標	評価項目	評価の観点	A	B	C	D	成果と課題	改善策・向上策
重点目標 【自分の考えをもち表現し合う】 「わくわく学び合い」を合い言葉に	■インクルーシブな視点での授業改善	テーマ別の職員グループによる授業改善や、合理的配慮と授業のユニバーサルデザイン化		○			視覚支援や掲示物の工夫により合理的配慮を意識した授業を展開できた。一方で、多様なニーズを持つ児童一人ひとりに集団指導の中でどこまで応ええるかについては、難しさを感じる面があった。	どの教室でも共通して活用できる支援教材や掲示物の整備を進めていきたい。実践例を積極的に共有し、組織として支援の質を高め、誰もが安心できる教育環境の標準化を図っていく。
	■授業の3観点を意識した授業づくり	子どもから生まれる“問い”から始まる授業づくり、メリハリある過程、確実な見届け		○			算数のルーティーン化や振り返りの充実により学習の流れの理解が進んだ。しかし、児童自ら「問い」を生む導入の工夫には課題が残ると感じているため、引き続き研究していきたい。	子どものつぶやきを大切に拾い、次時への意欲に繋がる学習問題の提示を工夫していく。確実な見届けができる時間配分を意識し、児童が目的意識を持てる授業構成を目指していきたい。
	■「考える・聴き合う・伝え合う」活動の重視	“一人ひとりで学ぶ”と“みんなで学ぶ”場面の効果的な位置づけ		○			ペア学習等を通じ自分の考えを話せる児童が増えた。しかし、相手の話を自分の学びに繋げる「聴き合う」力には個人差を感じているため、日常の授業の中で引き続き指導していきたい。	聴いた後の反応やつぶやきを促す活動を設定し、聴くことの価値を実感させていきたい。SST（ソーシャルスキルトレーニング）も活用し、対等で良好なコミュニケーション力を育てる場を意図的に設けていく。
	■子どもと創り出す探究的な学習の充実	地域やSDGs等を取り入れた軸にしたカリキュラムづくり～日常的な探究活動～		○			生活科や地域施設利用を通じ身近な対象への探究が深まった。一方で、活動を年間計画の中に有機的に位置づけることには、児童の実態に合わないこともあり、難しさを感じる面もあった。	年間の活動の軸を明確にし、児童が見通しを持って取り組めるカリキュラムを改善していく。地域学習やSDGsを自分事として捉え、達成感を味わえる探究活動の在り方を模索していきたい。
	■ICT機器の効果的な活用による授業づくり	学習内容や児童の実態や必要感に合わせてICT機器を有効活用		○			デジタル教科書等の活用により視覚支援や意見共有がスムーズになった。ただ、思考を深める「道具」としての活用には個人差を感じているので、活用場面をさらに精査していきたい。	ICTを使う目的を明確にし、意見の比較やまとめなど効果的な場面での活用を増やしていく。情報モラル教育も並行し、児童が主体的に使いこなせる環境を整えていきたい。
南小の宝 【根気よく清掃に取り組む】 「どんどん磨き合い」を合い言葉に	■無言清掃・気づき清掃の推進	高学年がお手本となる“南小の宝：ひざつき清掃”の推進や、協働することのよさ、奉仕の大切さの自覚を促す		○			伝統の「ひざつき清掃」が定着し、一生懸命取り組む姿が見られた。しかし、意義を自覚し自律して取り組む点では指導が必要だと感じる面があり、継続して子どもたちと向き合っていきたい。	清掃方法を再確認し、頑張る姿を認め合う評価を充実させていきたい。高学年が手本となる縦割り清掃の機会を工夫し、学校を綺麗にする喜びをスモールステップで伝えていく。
	■望ましい生活習慣の育成	心と体を自分で守ること（学校生活や登下校時の安心安全な行動） 生活習慣3本柱（家庭学習・メディア・就寝時刻）の推進		○			家庭と連携し安全指導や生活習慣の啓蒙に努めた。一方、メディア利用時間や安全な廊下歩行などの行動定着には難しさを感じる面があり、今後も粘り強く指導していきたい。	学年便り等で家庭での過ごし方を具体的に提案し、家庭との連携をさらに強めていきたい。命を守るための安全行動について、子ども同士で考え合わせる場を設けるなど意識向上を図っていきたい。
	■体力・健康向上プラン	一校一運動（持久走）や外遊びの充実、朝のストレッチ運動による心身の柔軟性形成		○			朝のストレッチが定着し、心身の柔軟性向上に寄与した。一方で、暑さ等の環境変化に合わせた活動継続や全校での意識向上には、まだ工夫が必要だと感じる面があった。	教室でも取り組みやすいストレッチ種目を精選し、日常的に継続していきたい。休み時間の外遊び推奨も含め、教職員も一緒に活動するなど、体を動かす楽しさを実感できる環境を整えていく。
	■チーム支援体制の構築	学年の先生交流、合同授業等によるチーム支援 学年、特コ・いじめ不登校対策委員会の充実	○				学年内や特別支援担当との連携により、多角的に児童を見守る体制を整えることができた。多くの職員で関わることで多面的な理解に繋がった一方、具体的な支援方法の共有については、更に職員で進めていきたい。	支援会議や生徒指導のユニバーサルデザイン化をさらに進め、組織としての対応力を高めていきたい。中学校との移行支援会議も充実させ、一人ひとりの特性に応じた切れ目ない支援体制を構築していく。
南小の宝 【明るいあいさつが響き合う】 「にこにこ響き合い」を合い言葉に	■道徳・人権教育・特別支援教育の充実	人権感覚、折り合いをつける力の育成や、多様性を包み込むインクルーシブ教育の推進		○			多様性を認める意識は高まったが、トラブル時に相手を尊重し「折り合いをつける力」を育むことには個人差を感じているため、引き続き丁寧に指導していきたい。	自分の心を見つめる機会を増やし、相手の立場に立った言動ができるよう促していきたい。全校で合理的配慮の視点を共有し、誰もが安心できる環境づくりをご家庭と共に進めていく。
	■児童会を中心とした学校生活・交流活動の充実	生活をよりよくするために、みんなで創り上げる児童会や、縦割りや姉妹学級での異学年交流の活性化。全校で取り組む学校行事での学び合い。		○			児童会まつり等の交流により異学年間の親睦が深まった。一方で、多忙なスケジュールの中で各活動に十分な意味づけを持たせることには、難しさを感じる面があった。	児童が主体的に企画し振り返る時間を確保できるよう計画を改善していきたい。互いの取り組みの良い点を認め合える活動を増やし、子どもたちの達成感を高めていきたい。
	■自己肯定感向上に向けた取り組みの充実	職員も児童も「さんづけ呼称」で広がる受容の輪		○			「さんづけ呼称」の徹底により互いを尊重する意識が浸透した。しかし、一部で見られる呼び捨てや呼称への抵抗感を持つ児童への対応には、難しさを感じる面があった。	なぜ「さんづけ」を大切にするのか名前の重みを再確認する機会を設けていきたい。公の場にふさわしい言葉遣いを、教職員も手本を示しながら継続的に指導していく。
	■あいさつ・返事・歌声の充実	あいさつ・返事の推奨による認め合う雰囲気づくりや、学年学級・音楽集会での歌声の充実		○			気持ちの良い挨拶や歌声に成果が見られた。一方で、指名後の返事や立ち止まってる挨拶を習慣化させることには個人差を感じているため、今後も大切に指導していきたい。	教職員自らが手本となり、響き合う挨拶と歌声の価値を伝えていきたい。集会等での返礼マナーについても意識させ、学校全体の活力が向上するような取り組みを継続していく。
家庭・地域との連携 ～ひらく・つながる・ともに創る南小～	■学校運営委員会・南っ子応援隊との連携 ■家庭・PTAとの連携 ■地域（中学校区）との連携	・信州型コミュニティスクール（CS）の活用・発展 ・子どもの自立のための保護者との連携や保護者への子どもたちの様子の発信（授業参観・通信・保護者との懇談等） ・家庭での生活習慣3本柱（家庭学習・メディア・就寝時間）の推進 ・幼保小中でつなぐ支援の連携や、民生児童委員会や自治会との連携（幼保小接続カリキュラム・移行支援会議・小中の接続の充実等）		○			・ボランティアの多大な協力により教育活動が豊かに支えられた。一方で、その成果や感謝を地域へより広く発信していく点では、まだ十分に手が回らず難しさを感じる面があった。 ・懇談会やボランティア活動を通じ情報共有が進んだ。一方で、日常のありのままの学校の様子をよりきめ細かく発信していくことには、難しさを感じる面もあった。	・地域の方から学ぶ機会をさらに増やし、交流を深めていきたい。コミュニティ・スクールとしての活動を可視化し、地域全体で子どもを育む体制を継続・発展させていく。 ・イベント的な参観だけでなく、日常の授業公開やボランティアの受け入れ体制を検討していきたい。 ・家庭学習や生活習慣の定着に向けた発信を工夫し、ご家庭との連携をより一層深めていく。